

令和2年司法試験 合格体験記

平成30年度修了（既修コース）高橋 華子

14期既修、令和2年度司法試験に合格いたしました高橋華子と申します。岡山大学法学部を卒業後、岡山大学法務研究科に進学しました。以下、私がローに進学してから、合格するまでの改善点を述べたいと思います。

まず、一読明瞭な文章を書くということです。

司法試験の答案を採点するのは採点委員であり、人間です。内容も不完全、文章は意味不明では、答案の体を成しませんし、採点委員にストレスを与えて、得なことはいはずです。そこで、読むにあたってストレスのない答案とは何かを分析しました。私は、そのような答案とは、主語、述語が対応した文章が、適切な接続詞で、接続された答案だと考えました。単純なことに思えるかもしれませんが、時間に追われ、緊張状態の司法試験の本番でもそのような文章を作成するためには、普段の意識付けが欠かせません。皆さんにはなるべく早く読みやすい文章がかけているかを確認することをおすすめします。

次に、司法試験の本番に、問題を目の前にして答案を作成するにあたり、必要なことを学習するという事です。

2年目、論点の発見、規範のアウトプットさえできれば、なんとか答案は作成できると考え、答案を書くよりも上記の点に特化して勉強しました。この方法を推奨しているわけではありません。1年目には、答案を相当数かいていたので、2年目はそれを踏まえた勉強にしました。勉強していると何もかもできていないように思うことがあるかと思います。しかし、できることはできると認め、できないことをできるようにする勉強をすれば合格できたということをお伝えする趣旨です。

受験生の皆さんには、私の失敗談を踏み台にして、ぜひ合格してほしいと思います。応援しています。

最後になりますが、ローの先生方、職員の皆さま、友人、私に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。岡大ローが少人数であったこと、先生方や先輩との距離が近かったことで、上記の改善ができました。合格できたのは岡大ローのおかげだと思っています。

これからは、岡大ローで受けた恩を社会に還元できるような弁護士になれるように精進いたします。本当にありがとうございました。